

報道関係者各位

2019年3月26日

スマートモビリティ推進コンソーシアム第1期における成果
～ 九州大学がNTTドコモ「AI運行バス」を国内で初めて導入決定 ～

スマートモビリティ推進コンソーシアム

スマートモビリティ推進コンソーシアムでは、2016年7月の設立以降、自動運転を始めとする次世代の交通システムを九州大学伊都キャンパス内で商用導入するべく、約2年半にわたって様々な実証実験と実用化の取り組みを行ってまいりました。

その成果として、国立大学法人九州大学に、コンソーシアム参加企業であるNTTドコモのオンデマンド交通システム「AI運行バス」が2019年4月より国内で初めて商用導入されることが決定いたしました。

今回、九州大学に商用導入される「AI運行バス」は、運行管制技術のひとつである乗り合い型のオンデマンド交通システムとして2017年9月から実証実験を開始。利用者がスマートフォンアプリ(iOS / Android 及び Web アプリ)から配車をリクエストすると、AIがエリア全体の需給状態をリアルタイムで計算して、最適となる走行ルートや乗り合わせ順位、担当車両を割り当てるといったものです。AI技術で車両の配車・運行管制を行うシステムは、将来的に自動運転バスが実用化した際に必要不可欠な要素技術であり、九州大学はその技術を先行する形で商用導入されることとなります。

スマートモビリティ推進コンソーシアムでは、IT技術の進展による先進的なモビリティ社会の実現を目指し、2019年4月以降も引き続き九州大学伊都キャンパスを実証実験フィールドとして用いて、第2期の活動を行っていく予定です。

【本件に関するお問い合わせ先】

スマートモビリティ推進コンソーシアム 事務局

〒104-0045 東京都中央区築地3-3-2 NEWS 築地 株式会社ジェイシーレゾナンス内

Tel:03-5565-1642 Fax:03-5565-6909

E-Mail: info@smpc.jp

※スマートモビリティ推進コンソーシアムの概要に関しては別紙をご参照下さい。

【別紙】スマートモビリティ推進コンソーシアムのご案内

【概要】

スマートモビリティ推進コンソーシアム（以下、コンソーシアム）とは、国立大学法人九州大学（以下、九州大学）、株式会社NTTドコモ（以下、ドコモ）、株式会社ディー・エヌ・エー（以下、DeNA）、福岡市の4者が2018年度下期に九州大学伊都キャンパス内への自動運転バスサービスインに向けて、2016年7月に合意。代表は九州大学の理事・副学長 安浦 寛人氏、副代表をドコモIoTビジネス部 部長 谷直樹氏とし、九州大学伊都キャンパスにおいて安心して便利なスマートモビリティ社会の実現に寄与するため活動を開始しました。

【活動の経緯】

2016年9月に上記4者が幹事として活動をスタートし、2016年12月から、自動運転バスの実現に必要な技術開発を行うドコモとDeNAにより実証実験を開始しました。

その後、日産自動車株式会社総合研究所モビリティ・サービス研究所、福岡地域戦略推進協議会、日本信号株式会社が参画し、2017年には、7者にて活動を行います。自動運転バスのサービスインには、“安全性の向上”、“利便性の向上”、“社会受容性の向上”が必要だと考え、九州大学伊都キャンパスの多様な交通環境の中、自動走行実証を繰り返し行うことで、自動運転バスの社会受容性の向上と安全性の検証を行いました。具体的には、路上センサーや信号機と車両が連携する「路車間協調技術」、乗り合い型車両の最適配車と効率的な運行を実現する「運行管制技術」、車内のサイネージ端末を用いて乗客に最適な案内を行う「音声エージェント」など、次世代の交通社会で求められる様々な技術やサービスの実用化に取り組み、約2年半に及ぶ実証実験を通じてコンソーシアム参加企業各社は、技術の向上はもちろんのこと、実用化と社会実装に向けた課題抽出など様々な成果を得ています。

コンソーシアムの活動は2018年度下期（2019年3月31日）まで各社で実証実験を継続。この活動で、安心して便利なスマートモビリティの実現に寄与するためのサービスに関する成果を各社それぞれが見出し、2019年4月に一部のサービスが商用化の実現に至っています。